

災害安全編



様々な災害発生時における危険について理解し、正しい備えと適切な判断ができ、安全な行動がとれるようにする。

1 幼稚園における災害安全に関する指導の内容例

	ねらい	項目	内容
非常災害時の避難	災害時の避難の仕方を知る。	災害時行動の仕方 慌てない、大人の指示に従う	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の意味・非常時の合図・基本的な行動 ・約束（防災頭巾等のかぶり方、教師の指示を聞く、おかしもの約束、教師のそばから離れない）
火災時の安全	火災時の避難の仕方を知る。	火災時の行動と避難の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・煙の怖さ、安全を確保する行動 ・避難経路、避難場所など、様々な場面に応じた避難の仕方
地震及び自然災害時の安全	地震時及び地震後の二次災害発生時の避難の仕方を知る。 地域の自然環境の特色を知る。	地震後の津波・土砂崩れ・火災・液状化などの発生時の避難の仕方 ・地震・津波情報の収集の仕方	<ul style="list-style-type: none"> ・地震のときに発生する様々な危険（落下物・家具等の転倒等）に応じた避難の仕方 ・津波警報と避難の仕方 二次災害発生の可能性 ・津波以外の二次災害に対する警報や避難の仕方
気象災害時の安全	暴風雨、洪水、落雷等の災害発生時の危険を知り、安全な行動ができる。 二次的な土砂災害についても知り、崖などに近づかない。	暴風雨、洪水等による危険及び安全な行動 地域の河川を知り、近づかない 落雷による危険及び安全な行動	<ul style="list-style-type: none"> ・暴風雨、洪水時の怖さと安全な行動 看板等の落下物 電線の切断や倒木等 ・戸外にいるときの落雷の怖さ ・落雷に遭わないための安全な行動
災害事故防止と安全な生活	地域における災害安全に関心をもつ。	災害安全に関する地域や学校（園）の行事や活動等への理解と積極的な参加	<ul style="list-style-type: none"> ・地域防災訓練等の行事への参加や活動への関心（保護者とともに）

ねらい 「災害時の避難の仕方を知る。」～慌てず大人の指示に従う～

指導の
ポイント

避難訓練の意味・非常時の合図・基本的な行動、約束

火災や地震を想定した避難訓練は、学校安全計画の中に位置づけ、災害時には教職員の適切な指示に従い、一人一人が落ち着いた行動がとれるようにする。

いざというときは

あわてないで 逃げる

○先生や、周りにいる大人の指示に従って逃げる

○大人がいないときには、周りをよく見て逃げる

目指す
子どもの姿

学習の
ポイント

地震のときは	津波のときは	火事のときは
<ul style="list-style-type: none"> ・ものが「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」 ・場所で、頭を守って身を守る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・海や川から離れる。 ・高い場所に逃げる。 ・できるだけ早く逃げる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ハンカチで口と鼻を覆う。 ・低い姿勢で逃げる。

避難の約束 「お・か・し・も」

自助・共助
のポイント

おさない・かけない・しゃべらない・もどらない

教職員の援助・保護者との連携

- ・様々な状況を想定し、繰り返して指導の徹底を図る。
- ・視聴覚教材等を利用し、わかりやすく指導する。
- ・保護者への連絡を徹底する。
- ・引き取り訓練などを行い、保護者への連絡方法、避難場所等を繰り返し確認、徹底する。

ねらい 「気象災害の危険を知り、安全な行動ができる。」

指導の
ポイント

気象災害の怖さと安全な行動

暴風雨、洪水、落雷等の災害発生時の危険を知り、安全な行動ができるようにする。
川や崖など危ないところには近づかないようにする。

気象災害の危険を知り

目指す
子どもの姿

安全な行動を考える

○雨が降っているとき、風が強いとき、落雷の危険を知る

○台風や暴風雨、落雷時の安全な行動を知る

学習の
ポイント

大雨のときの危険

- ・川や用水路があふれる。
- ・崖や斜面が崩れる。

風が強いときの危険

- ・看板等が落下する。
- ・電線が切れたり、木が倒れたりする。

雷のときの危険

- ・高いところに落ちる傾向がある。
- ・落雷を受けると感電する。

自助・共助
のポイント

雨、風が強いとき、雷が鳴っている時には

建物の外には、絶対に出ない

どうしても外出しなくてはいけない時には、大人と一緒に

教職員の援助・保護者との連携

- ・日頃から、天候が急変したときなどはすぐに室内に戻るという指導を徹底する。
- ・それぞれの気象災害の危険について、発達段階に合わせ、わかりやすく指導する。
- ・情報の収集を正確かつ迅速に行い、状況を見て、早めに避難するよう判断する。
- ・登降園時に気づいた危険な場所や状況を連絡しあい、回避するよう伝達する
- ・登降園時の災害発生を考え、保護者にも危険回避の方法を伝えておく。

	ねらい	項目	内容 ※低（低学年）中（中学年）高（高学年）
火災時の安全	火災時に起こりやすい危険な状況を理解し、適切な行動ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・火災時の危険 ・状況に応じた安全な行動 ・避難経路・避難場所の確認と避難や誘導の仕方 	低・火のまわり方と煙の危険、 ・火のまわり方と煙に対する行動の仕方と避難の方法
			中・火災の原因と危険 ・火災情報に基づいた判断と安全な行動 ・避難場所の確認
			高・火災が発生したときの心構え ・安全な行動の要素、燃焼の3要素の理解と可能な対応 ・様々な場面に応じた避難の方法
地震及び自然災害時の安全	地震発生の場合、危険な行動に走りやすいことを理解し、安全な行動ができるようにする。 地域によって津波の発生があることも理解し、安全な避難ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・地震による危険を理解し、安全に行動できるようにする ・津波や土砂災害などの二次的災害を理解し、安全に行動できるようにする ・避難経路・避難場所の確認と避難や誘導の仕方 	低・地震・津波の時の危険 ・安全な避難場所の確認と避難の仕方 津波の危険
			中・地震・津波情報（緊急地震速報）に基づいた判断と安全な行動 ・安全な避難場所の確認 ・津波情報の収集の仕方
			高・地震・津波のときの危険に対する心構え ・様々な場面に応じた避難の仕方 ・低学年の児童への支援
火山災害時の安全	火山災害が発生した場合の危険を理解し、安全な行動ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・火山活動による危険と避難の仕方 ・火山噴火の情報の収集 	低・安全な避難場所の確認と避難の仕方 ・火山活動による危険
			中・火山情報の収集の仕方
			高・様々な場面に応じた避難の仕方

気象災害時の安全	風水害は登下校時の道路環境を変えることがあることを理解し、危険を的確に判断し、安全な行動ができるようにする。 風水害には二次的な土砂災害も含まれるので、地域の自然環境も理解する。 注意報・警報・特別警報の意味や避難指示等の発令を理解する。	<ul style="list-style-type: none"> ・風水害等による危険と安全な行動の仕方 ・落雷による危険と安全な行動の仕方 ・積雪等による危険と安全な行動の仕方 	低・風水害のときの安全な登下校の仕方 <ul style="list-style-type: none"> ・登下校中の落雷による危険 ・積雪のときの安全な登下校の仕方
			中・風水害の時の危険 <ul style="list-style-type: none"> ・落雷からの身の守り方 ・積雪のときの危険
			高・風水害の時の安全な行動 <ul style="list-style-type: none"> ・落雷に遭わない行動の仕方 ・積雪のときの安全な行動の仕方
原子力災害時の安全	放射線による事故の危険について理解し、安全な行動ができるようにする。 原子力災害が発生したときの情報を収集し、行政の指示に従い、安全な行動がとれるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・放射線による身体への影響や健康被害 ・放射線による健康被害の防止や避難の仕方 ・放射線による健康被害の防止と個人や社会の責任 	低・目に見えない危険 <ul style="list-style-type: none"> ・安全な避難の仕方 ・放射線の存在
			中・身近にある放射線 <ul style="list-style-type: none"> ・避難経路や避難場所の確認 ・放射線の使われ方
			高・放射線による身体影響と健康被害 <ul style="list-style-type: none"> ・正しい情報の入手の仕方 ・放射線の安全対策への理解
安全(知識・理解) 避難所の役割と	災害発生時における避難所の役割とそこでの生活を理解し、安全な行動ができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・災害発生状況と避難所の意義と相互扶助 	低・避難所での安全な生活
			中・災害発生時の避難所の役割
			高・避難所の生活と自分の役割
避難所の役割と安全(実践)	災害安全に関する意識を高めるために、防災避難訓練等の学校行事の意義を理解し、積極的に参加できるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> ・災害安全に関する学校行事等の意義の理解と積極的な参加 ・児童会活動による自主的活動への参加 ・地域における防災に関する活動への参加 ・家族と避難場所を決めておく 	低・防災避難訓練等への参加の仕方 <ul style="list-style-type: none"> ・家庭での防災
			中・災害安全に関する学校行事への積極的参加、学校での防災
			高・災害安全等に関する学校行事の意義と理解 <ul style="list-style-type: none"> ・災害安全に関する児童会活動の内容 ・地域における防災に関する活動の理解と参加

ねらい 「災害時の危険を理解し、安全な行動と避難の仕方を知る」

指導の
ポイント

危険に対する正しい理解と、状況に応じた安全な行動

災害時、自分や周囲の命を守るために、それぞれの災害の危険を理解し、安全に行動できるようにする。発達段階に応じて、様々な場面に応じた避難経路と避難場所の確認、誘導の仕方を身につける。

目指す
子どもの姿

いざというときは

状況に応じた避難行動をとる

○それぞれの災害の危険を理解し、安全な行動をとる

○自分の安全を確保し、周囲にも声をかけて避難する

学習の
ポイント

火災のときは	気象災害のときは	地震・津波のときは
<ul style="list-style-type: none"> ・煙を吸わないようにする。 ・あわてないで早く避難する。 ・低い姿勢で避難する。 ・消火中、天井に火が移ったらすぐに避難する。 ・逃げ遅れたら外に知らせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・情報に耳を傾け、危険が迫る前に早めに避難する。 ・避難路上が浸水しているときには、高い所に避難し、救助を待つ。 ・雷発生時には外に出ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・危険なものから離れる ・頭を保護する。 ・緊急地震速報を活用して、身を守る。 ・沿岸部では津波が来ると考え、高いところへ避難する。

自助・共助
のポイント

一度避難したら、もどらない

避難をするときには周囲の人に声をかける

学習支援のポイント

- ・学校や地域の実情に即して予想される様々な状況を想定し、繰り返して指導の徹底を図る。
- ・視聴覚教材等を利用し、わかりやすく指導する。
- ・社会科や理科で自然災害につながる内容を学んだことを生かしながら災害に対してどのように身を守ったらよいか、実際に訓練しながら学ばせる。

実践例 「風水害時に命を守る安全な行動ができるようになる。」

教科等における安全教育

<正しい知識の習得>

理科

「流れる水の働きと土地の変化」

- ・ 雨の降り方によって、流れる水の速さや量は変わり、増水により土地の様子が大きく変化する場合があること。

「天気の変化」

- ・ 天気の変化は、映像などの気象情報を用いて予想できること。
(台風の進路による天気の変化や台風と降雨との関係及びそれに伴う自然災害についても触れること)。

<思考力・判断力・表現力の育成>

社会科

追究・解決する活動

「我が国の国土の自然環境と国民生活との関連について」

- ・ 自然災害は国土の自然条件などと関連して発生していることや、自然災害から国土を保全し国民生活を守るために国や県などが様々な対策や事業を進めていることを理解すること。
- ・ 災害の種類や発生の位置や時期、防災対策などに着目して、国土の自然災害の状況を捉え、自然条件との関連を考え、表現すること。

日常的な安全教育

「朝の会・帰りの会」等で

<天候状況に合わせて>

- ・ 暴風雨、洪水等による危険及び安全な行動の確認(外出を控える、情報を収集する、早めの避難、河川に近寄らない等、状況に応じて)。
- ・ 落雷に遭わないための安全な行動を知る。

<繰り返し指導>

<災害発生をうけて>

- ・ 実際に発生した災害を教訓に、自分たちの行動を振り返り、災害時の安全な行動を確認。
- ・ 災害に備えて事前にできること、気をつけることを考え、実践する。

定期的な安全教育

特別活動・学校行事

<避難訓練・引き渡し訓練>

- ・ 近隣の川が氾濫する可能性を想定した避難訓練(校舎最上階への避難等)
- ・ 通常引き渡し訓練の際、下校時に保護者とともに、通学路の危険箇所について確認をする(落下物、倒木の危険、側溝、マンホールなど)。

<実践に結びつける>

<長期休業前の指導>

- ・ 暴風雨、洪水等による危険及び安全な行動
- ・ 台風への備え及び安全な行動
- ・ 地域の河川、海へ近づくことの危険
- ・ 「警戒レベル」等、各種警報の意味
- ・ 旅行先での安全な行動(山間部、沿岸部)

教科等で学習した基礎知識を基に、日常的な安全教育、定期的な安全教育の場で繰り返し学習していくことで、気象災害に対する理解を深め、安全な行動に結びつける。

ねらい 「身近な地域に起こる危険を学び、危険に備える。」

指導の
ポイント

地域の特徴の理解、 災害を予測した事前の備え、事後の行動

自分たちの住んでいる地域には、どのような特徴があるのかを調べ、災害が発生したときには、どのようなことが起こるのかを予測する。それに対して、事前にどんな備えが必要なのか、いざというときどう行動すれば良いのか考え、実践できるようにする。

目指す
子どもの姿

地域の特徴を知り、 危険を予測し、回避する方法を考える

○自分たちの住む地域の特徴を調べる(災害に強いところ・弱いところ)

○災害が起きたときの危険、備えを考える

学習の
ポイント

自分たちの住む地域にはどんな特徴があるだろうか？

- ・ 地形の様子(海沿い、山間部、川沿い、平地、崖の有無)
- ・ 道路の様子(広い道路、狭い道路、ブロック塀の有無)
- ・ 建物の様子(密集しているのか、高さ、落下物)
- ・ 災害時に役立つ施設はあるか。
- ・ 公園や広場はどれくらいあるか。
- ・ 避難場所・避難所に指定されているところはどこか。

災害に強いところ	災害に弱いところ	災害に備えてできること
<ul style="list-style-type: none"> ・ 広い道路が通っている。 ・ 公共施設がたくさんある。 ・ 病院がたくさんある。 ・ 消防署が近くにある。 ・ 公園がたくさんある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 狭い道路がたくさんある。 ・ 公共施設が少ない。 ・ 海に面している。 ・ 崖崩れの恐れがある。 ・ 浸水の恐れがある。 ・ 液状化しやすい。 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難場所の確認 ・ 避難経路の安全確認 ・ 災害用備蓄品の準備 ・ 家族との連絡方法の確認 ・ 地域安全マップ作り

自助・共助
のポイント

学習支援のポイント

- ・ 自分たちの住む地域の特徴を押さえ、自然災害が発生したときに、地域のどの場所が危険になるのかを考え、危険を回避するための方法を考えておく。
- ・ 通学路を中心とした地域の安全マップを作成することで、地域の特徴や災害時の危険箇所、避難場所、避難所等を確認し、災害時の安全な行動に役立てる。

実践例 「身近な地域の危険から人々を守る活動」

安全マップ作り

教科等における安全教育

<正しい知識の習得>

<思考力・判断力・表現力の育成>

社会科 「自然災害から人々を守る活動」 追究・解決する活動

- ・地域の関係機関や人々は、自然災害に対し、様々な協力をして対処してきたことや、今後想定される災害に対し、様々な備えをしていることを理解すること。
 - ・聞き取り調査をしたり地図や年表などの資料で調べたりして、まとめること。
 - ・過去に発生した地域の自然災害、関係機関の協力などに着目して、災害から人々を守る活動を捉え、その働きを考え、表現すること。
- ※地域で起こりうる災害を想定し、日頃から必要な備えをするなど、自分たちにできることなどを考えたり選択・判断したりできるよう配慮すること。

自然災害とはどのようなものか？

→ 地震災害、津波災害、風水害(洪水、土砂災害)、雪害、火山災害 など

もし、自分たちの住む地域に、自然災害が起こったら、どんな危険があるのだろうか？



自分たちの住む地域には、過去に、どんな自然災害が発生したのだろうか？

地域では、自然災害に備えてどのような取組をしているのだろうか？

地域について調べる

<地域の中の危険>

- ・過去に起きた自然災害、被害があった所
自然災害伝承碑など
- ・今後、起こりうる自然災害、被害が出そうな所

<自然災害に対する地域の備え>

- ・県庁や市役所など自治体の取り組み
- ・飲料水、電気、ガスの事業者の取り組み
- ・町内会、消防団などの取り組み
- ※過去の災害の教訓を生かした対応なども



自分たちにできる備え、取組を考える

- ・過去に地域で起きた自然災害について、いつ、どこで、どのような災害が発生したのか。その災害の教訓から、どのような備えや対応が必要なのかを考える。(資料の活用、地域の方への聞き取り)
 - ・今後、地域で起こりうる自然災害を想定し、日頃から必要な備え、自分たちにできることを考える。
- 避難場所、避難所、避難経路の確認 ・非常用備蓄品、非常用持出袋の準備 ・家族との連絡方法の確認 ・地域の防災訓練への参加 ・正しい情報の収集 など



学習したことを「安全マップ」にまとめる

社会科

総合的な学習の時間

- ・地域の安全マップづくりは、児童自身に周囲の環境における危険個所の確認や危険予測を行わせたり、具体的な行動を考えさせたりする上で有効である。
- ・保護者や地域と連携して、地域の自治会の人や住民の自主防災の取り組みについて話を聞いたり、自主防災倉庫の中を見せてもらったりするとよい。

マップにまとめる内容

- 地域にある災害時に役立つ施設： 市役所(支所)、消防署、警察署、学校、幼稚園、医療機関、公民館、自治会館、社会福祉施設、ヘリポート、防災倉庫 等
- 災害時に危険な場所： ブロック塀、看板、橋、交差点、川沿いの道 等
- 今後、地域で起こりうる自然災害を想定し、日頃から必要な備え、自分たちにできることを提案

作成した安全マップの活用例

<思考力・判断力・表現力の育成>

<学級、学年での発表会>

- ・グループごとに地域の課題を考え、まとめ、発表する学習。
- ・過去の自然災害の教訓や、今後起こりうる自然災害への備えに関する情報などを共有する。

<保護者、地域住民に向けて>

- ・過去の自然災害の教訓や、今後起こりうる自然災害への備えに関する情報などを共有する。
- ・地域の避難場所・避難所、避難経路、危険個所等の情報を発信し、地域防災力向上に役立てる。

日常的な安全教育

「朝の会・帰りの会」等で

<繰り返し指導>

<天候状況に合わせて>

- ・気象災害の発生が予想される際には、**作成した安全マップ**をもとに、地域の危険個所の確認、事前の備え、安全な行動、いざというときの避難場所、避難方法等を再確認する。

<災害発生をうけて>

- ・実際に発生した災害を教訓に、自分たちの行動を振り返り、災害時の安全な行動を確認する。
- ・**作成した安全マップ**をもとに、災害に備えて事前
にできること、気をつけることを確認、実践する。

定期的な安全教育

特別活動・学校行事

<実践に結びつける>

- ・避難訓練や長期休業前の指導の際に、作成した安全マップを活用し、具体的に地域の危険をイメージし、それに対する備えや、避難行動の仕方などを確認する。

安全マップ作りを通して、自然災害に対する地域の備えや取組を知るとともに、今後、地域で起こりうる自然災害を想定し、日頃から必要な備え、自分たちにできることを考え、表現することで、危険予測能力、危険回避能力を育成する。

ねらい 「災害時の避難所の役割とそこでの生活を理解する。」

指導の
ポイント

避難所での安全な生活、 避難所の生活と自分の役割

災害発生時における避難所の役割とそこでの生活を理解し、安全な行動ができるようにする。周りの人のために自分たちができることを考え、共助について理解する。

避難所の役割を理解し、 自分たちにできることを考える

目指す
子どもの姿

○避難所はどんな所かを知る

○避難所で気を付けること、自分たちにできることを考える

学習の
ポイント

避難所とは	気を付けること	自分たちにできること
<ul style="list-style-type: none"> ・自然災害が起きそうなときや起こった後、家にいると危険な時に避難生活をするところ。 ・避難している人同士で協力して生活するところ。 ・小さい子からお年寄りまで、様々な人が集まってくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの人に迷惑をかけない（大きな声を出さない、走り回らない 等）。 ・避難所での約束やルールを守る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所内の掃除、片付け ・ごみの分別 ・小さい子たちの遊び相手 ・お年寄りの話し相手 ・周りの人への、元気な挨拶 ・心のこもったお礼 など

自助・共助
のポイント

ルールやマナーを守り、助け合って生活する
周りの人のために自分たちができることを考える

学習支援のポイント

- ・災害時の避難所の様子の写真などから、避難所がどんなところなのかを知り、避難所で守るべきルールやマナーについて考え、話し合わせる。
- ・避難している人同士で協力して生活していくためには、どんな仕事や役割があるかを考えさせ、その中で自分たちにできることを考え、話し合わせる。

実践例 「避難所生活で私たちにできることを考えよう。」

定期的な安全教育

学校行事

<正しい知識の習得>

<避難訓練・合同防災訓練>

- ・避難訓練や合同防災訓練の際に、学校が地域の避難場所や避難所になっていることを知る。
- ・災害時、自宅にいたことが危険になった時には、避難生活に必要な準備をして、安全に気を付けて避難所へ避難することを知る。

教科等における安全教育

<思考力・判断力・表現力の育成>

<学級活動・総合的な学習の時間などで>

- ・絵や写真、映像などを見て、避難所とはどんな所かを知る。
- ・避難所で生活するうえで守るべきルールやマナーについて考える。
- ・周りの人のために自分たちができることを考え、共助について理解する。

<道徳>「節度・節制」

- ・健康や安全に気を付け、物や金銭を大切にし、身の回りを調べ、わがままをしないで、規則正しい生活をする。 (1,2年)
- ・自分でできることは自分でやり、安全に気を付け、よく考えて行動し、節度のある生活をする。 (3,4年)
- ・安全に気を付けることや、生活習慣の大切さについて理解し、自分の生活を見直し、節度を守り節制に心がける。 (5,6年)

「勤労・公共の精神」

- ・働くことや社会に奉仕することの充実感を味わうとともに、その意義を理解し、公共のために役立つことをすること。 (5,6年)

日常的な安全教育

<地域とのつながり>

<いざというときに、地域の人たちと協力して生活するために日頃からできること>

- ・時と場に応じた気持ちの良い挨拶ができるようにする。
 - ・幼児、高齢者、障害のある人など、他の人の身になって考えて、思いやりのある行動ができるようにする。
- * 地域における防災に関する活動への参加の推奨 (地域合同防災訓練、自主防災会避難訓練など)

避難訓練や合同防災訓練を行う前後に、教科等における安全教育として避難所生活について取り上げると効果的である。日頃から「お互いに助け合う思いやりの心」「挨拶をきちんとする」「校内のルールを守る」などを心がけることも、安全教育として大切なことである。

3 中学校・高等学校における災害安全に関する指導の内容例

	ねらい	項目	内容 ※中(中学校)高(高等学校)
火災時の安全	火災時の時に起こりやすい危険な状況を理解し、適切な行動ができるようになる。	火災時の時の危険	中・火災の原因と危険、火災に対する心構え
			高・火災の原因と危険、危険物の取り扱い ・火災に対する心構え
		火災の状況に応じた安全な行動	中・有害な煙に対する行動の仕方、火災の特性 ・救命器具の使い方と初期消火の仕方
			高・有害な煙に対する行動の仕方、火災の特性 ・初期消火の仕方 ・パニックの防止と安全な行動
		避難経路・避難場所の確認と避難や誘導の仕方	中・避難経路、避難場所の確認 ・様々な場面に応じた避難の仕方
			高・避難経路、避難場所の確認 ・様々な場面に応じた避難と避難誘導の仕方
地震及び自然災害時の安全	地震発生の場合、危険な行動に走りやすいことを理解し、安全な行動ができるようになる。地域によって津波の発生があることも理解し、安全な避難ができるようになる。	地震による危険を理解し、安全に行動できるようにする	中・地震・津波のメカニズム ・地震の時に発生する様々な危険(家屋の倒壊、地割れ、山崩れ、液状化、陥没、落下物) 正しい情報の入手、緊急地震速報への対応 ・パニック防止と安全な行動 ・地震災害への家庭での備え
			高・地震・津波のメカニズム ・地震の時に発生する様々な危険(家屋の倒壊、地割れ、山崩れ、液状化、陥没、落下物) ・正しい情報の入手と発信 ・緊急地震速報への対応 ・パニック防止と安全な行動 ・地震災害への家庭での備え
		避難経路・避難場所の確認と避難や誘導の仕方	中・地震に応じた避難経路と避難場所の確認 ・様々な場面に応じた避難の仕方
			高・地震に応じた避難経路と避難場所の確認 ・様々な場面に応じた避難と避難誘導の仕方
		津波による危険と避難の仕方	中・津波による危険(河川の遡上も含む) ・津波警報・特別警報と避難の仕方
			高・津波による危険(河川の遡上も含む) ・津波警報・特別警報による避難と避難誘導の仕方

火山災害時の安全	火山災害が発生した場合の危険を理解し、安全な行動ができるようにする。	火山活動による危険と避難の仕方	<ul style="list-style-type: none"> 中・火山活動（火砕流、噴石、降灰、溶岩流、火山ガス）のメカニズムとその危険 ・火山情報と避難の仕方
		火山噴火の情報の収集	<ul style="list-style-type: none"> 高・火山活動（火砕流、噴石、降灰、溶岩流、火山ガス）のメカニズムとその危険 ・火山情報による避難と避難誘導の仕方
気象災害時の安全	風水害は登下校時の道路環境を変えることがあることを理解し、危険を的確に判断し、安全な行動ができるようにする。 風水害には二次的な土砂災害も含まれるので、地域の自然環境も理解する。 注意報・警報・特別警報の意味や避難指示等の発令を理解する。	風水害等による危険と安全な行動の仕方	<ul style="list-style-type: none"> 中・風水害のときの危険（落下物電線の切断や倒木、増水による河川の変化、土砂崩れ、河川の崩壊や橋の流出） ・風水害の情報と避難の仕方、避難指示の理解と行動
		豪雪、雪崩による危険と安全な行動の仕方	<ul style="list-style-type: none"> 高：風水害のときの危険（家屋への浸水、家屋の倒壊、河川の氾濫、土石流、崖崩れ） 風水害の情報による避難と避難誘導の仕方、避難指示の理解と行動
			<ul style="list-style-type: none"> 中・豪雪時の交通安全、屋根等からの落雪、地吹雪時の危険
		落雷による危険と安全な行動の仕方	<ul style="list-style-type: none"> 高・豪雪時の交通安全、屋根等からの落雪、地吹雪時の危険、除雪時の危険
			<ul style="list-style-type: none"> 中・落雷しやすい気象条件・雷注意報への理解 ・校庭・プール等校舎外での危険 ・登下校中による危険 ・落雷に遭わない安全な行動
		<ul style="list-style-type: none"> 高・落雷しやすい気象条件・雷注意報への理解 ・屋内外での危険 ・安全な避難と避難誘導の仕方 	
原子力災害時の安全	放射線による事故の危険について理解し、安全な行動ができるようにする。 原子力災害が発生したときの情報を収集し、行政の指示に従い、安全な行動がとれるようにする。	放射線による身体への影響や健康被害	<ul style="list-style-type: none"> 中・身近にある放射線 ・目には見えない危険と身体への影響と健康被害
			<ul style="list-style-type: none"> 高・放射線の身体への影響と健康被害 ・屋内退避や洗浄
		放射線による健康被害の防止や避難の仕方	<ul style="list-style-type: none"> 中・健康被害の内容と防止 ・放射線事故に応じた避難の仕方 ・避難経路と避難場所の確認
			<ul style="list-style-type: none"> 高・正しい情報の入手 ・避難警報と安全な避難と避難誘導の仕方

		地域・社会生活における放射線事故の防止策	中・放射線による原子力災害と安全対策 ・モニター制度の仕組みとのかかわり
			高・放射線による原子力災害に関わる防災対策
		放射線による健康被害の防止と個人や社会の責任	中・情報の収集の仕方 ・防災訓練への参加
			高・放射線による健康被害防止策 ・防災訓練への積極的参加
安全(知識・理解) 避難所の役割と	災害発生時における避難所の役割とそこでの生活を理解し、他者への配慮ができるようにする。	災害発生状況と避難所の意義と相互扶助	中・災害発生時の避難所の意義と役割 ・避難所での生活 ・自主的な組織活動の必要性と相互扶助 ・ボランティア活動への参加
			高・避難所生活と相互扶助 ・自主組織の活動への積極的参加 ・ボランティア活動への積極的参加 ・ライフラインの確保
避難所の役割と安全(実践)	災害安全に関する意識を高めるために、防災避難訓練等の学校行事の意義を理解し、積極的に参加できるようにする。	災害安全に関する学校行事等の意義の理解と積極的な参加	中・災害安全に関する学校行事の意義の理解 ・防災訓練等行事への参加
			高・災害安全に関する学校行事の意義の理解 ・防災訓練等行事への参加の仕方
		生徒会活動による自主的活動への参加	中・災害安全に関する生徒会活動の内容
			高・災害安全に関する生徒会活動の内容
		地域社会における防災に関する活動への参加 家族と避難場所を決めておく	中・地域における防災に関する活動への参加(防災訓練、救急法、応急手当、災害時のボランティア活動) ・家庭における防災に関する積極的な関わり(点検、整備、防災備品の整理) ・家庭における避難場所や連絡方法及び登下校の安全
			高・地域における防災に関する活動への積極的参加(防災訓練、救急法、応急手当、災害時のボランティア活動) ・家庭における防災に関する積極的な関わり(点検、整備、防災備品の整理) ・家庭における避難場所や連絡方法及び登下校の安全

ねらい 「災害時の危険を理解し、安全な行動と避難の仕方を知る」

指導の
ポイント

状況に応じた安全な行動、避難や誘導の仕方

災害時、自分や周囲の命を守るために、それぞれの災害のメカニズムや危険を理解し、正しい情報収集をして、安全に配慮した的確な行動ができるようにする。様々な場面に
応じた避難経路と避難場所の確認、誘導の仕方を身につける。

目指す
子どもの姿

いざというときは

状況に応じた避難行動をとる

○それぞれの災害の危険を理解し、安全な行動をとる

○自分の安全を確保し、周囲にも声をかけて避難する

学習の
ポイント

火災について	気象災害について	地震・津波について
<ul style="list-style-type: none"> ・火災の原因と危険 ・有害な煙に対する行動の仕方 ・火災の特性 ・救助器具の使い方と初期消火の仕方 ・様々な場面に応じた避難の仕方 	<ul style="list-style-type: none"> ・風水害の時の危険 ・風水害情報と避難の仕方 ・避難指示の理解と行動 ・落雷しやすい気象条件・雷注意報への理解 ・積雪の時の危険 	<ul style="list-style-type: none"> ・地震・津波発生のメカニズム ・地震・津波の際の様々な危険 ・正しい情報の入手(緊急地震速報、各種警報含む) ・地震災害への家庭での備え ・避難経路と避難場所の確認

自助・共助
のポイント

危険を予測し、安全に配慮した的確な行動をとる

避難をするときには周囲の人に声をかける

学習支援のポイント

- ・日常及び災害時の安全確保に向けた正しい情報の収集と理解ができるようにする。
- ・安全に配慮した的確な行動がとれるよう、状況に応じて自他の安全を確保する態度を育てる。
- ・地域の地理、自然の特性など教科等横断的に学ぶ中で、様々な危険を予測したり、問題解決の方法を話し合ったりすることで、安全に保つために必要な事柄への理解を深める。

実践例 「風水害時に命を守る安全な行動ができるようになる。」

各教科等における安全教育

＜正しい知識の習得＞

理科 第2分野

「気象とその変化」

- ・ 天気の変化や日本の気象についての規則性や関係性を見いだして表現すること。

「自然の恵みと気象災害」

- ・ 気象現象がもたらす恵みと気象災害について調べ、これらを天気の変化や日本の気象と関連付けて理解すること。
- ・ 例えば、台風について扱う場合は、被害をもたらした過去の台風の特徴を取り上げるとともに、台風の進路に基づいて強風や高潮などによる災害の発生した状況を整理させる学習が考えられる。

＜思考力・判断力・判断力の育成＞

社会科 地理的分野

「日本の地域的特色と地域区分」

- ・ 日本の地形や気候の特色、海洋に囲まれた日本の国土の特色、自然災害と防災への取組などを基に、日本の自然環境に関する特色を理解すること

保健体育科 保健分野

「傷害の防止」

- ・ 自然災害による傷害は、災害発生時だけでなく、二次災害によっても生じること。また、自然災害による傷害の多くは、災害に備えておくこと、安全に避難することによって防止できること

日常的な安全教育

「朝の会・帰りの会」等で

＜天候状況に合わせて＞

- ・ 風水害の時の危険
- ・ 風水害情報と避難の仕方、避難指示・警戒レベルの理解と行動
- ・ 落雷に遭わないための安全な行動

＜繰り返し指導＞

＜災害発生をうけて＞

- ・ 実際に発生した災害を教訓に、自分たちの行動を振り返り、災害時の安全な行動を確認する。
- ・ 災害に備えて事前にできること、気をつけることを考え、実践する。

定期的な安全教育

特別活動・学校行事

＜避難訓練・防災訓練＞

- ・ 近隣の川が氾濫する可能性を想定した避難訓練（校舎最上階への避難等）
- ・ 地域との合同防災訓練（救急法、応急手当、災害時のボランティア活動）

＜実践に結びつける＞

＜長期休業前の指導＞

- ・ 暴風雨、洪水等による危険及び安全な行動
- ・ 台風への備え及び安全な行動
- ・ 地域の河川、海へ近づくことの危険
- ・ 「警戒レベル」等、各種警報の意味
- ・ 旅行先での安全な行動（山間部、沿岸部）

教科等で学習した基礎知識を基に、日常的な安全教育、定期的な安全教育の場で繰り返し学習していくことで、気象災害に対する理解を深め、安全な行動に結びつける。

ねらい 「身近な地域に起こる危険を知り、危険に備える。」

指導の
ポイント

地域の特徴を知る、災害を予測した事前の備え、事後の行動を考える

自分たちの住んでいる地域には、どのような特徴があるのかを調べ、災害が発生したときには、どのようなことが起こるのかを予測する。それに対して、事前にどんな備えが必要なのか、いざというときどう行動すれば良いのか考え、実践できるようにする。

目指す

子どもの姿

地域の実態、課題を知り、 課題解決に向けての取組を考える

- 自分たちの住む地域の特徴を調べる(地理的環境、住民の構成、地域組織など)
- 災害が起きたときの危険、備え、地域の取組を理解し、積極的に関わる

学習の
ポイント

自分たちの住む地域にはどんな特徴があるだろうか？

- ・ 地形の様子(海沿い、山間部、川沿い、平地、崖の有無)
- ・ 道路の様子(広い道路、狭い道路、ブロック塀の有無)
- ・ 建物の様子(密集しているのか、高さ、落下物)
- ・ 地域住民の様子(家族構成、年齢層、日中地元に残っている住民、災害時要配慮者の存在 など)
- ・ 公園や広場はどれくらいあるか。
- ・ 避難場所・避難所に指定されているところはどこか。

災害に強いところ	災害に弱いところ	災害に備えてできること
<ul style="list-style-type: none"> ・ 広い道路が通っている。 ・ 公共施設がたくさんある。 ・ 病院がたくさんある。 ・ 消防署が近くにある。 ・ 公園がたくさんある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 狭い道路がたくさんある。 ・ 公共施設が少ない。 ・ 海に面している。 ・ 崖崩れの恐れがある。 ・ 浸水の恐れがある。 ・ 液状化しやすい。 など 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハザードマップの確認 ・ 避難場所の確認 ・ 避難経路の安全確認 ・ 災害用備蓄品の準備 ・ 家族との連絡方法の確認 ・ 地域安全マップ作り

自助・共助
のポイント

学習支援のポイント

- ・ ハザードマップ等を活用し、自分たちの住む地域の特徴を押さえ、自然災害が発生したときに、地域のどの場所が危険になるのかを考え、危険を回避するための方法を考えておく。
- ・ 通学路を中心とした地域の安全マップを作成することで、地域の特徴や災害時の危険箇所、避難場所、避難所等を確認し、災害時の安全な行動に役立てる。

実践例 「身近な地域の危険から人々を守る活動」

～安全マップの活用～

各教科等における安全教育

<正しい知識の習得>

<思考力・判断力・表現力の育成>

理科 第2分野

「自然と人間」

- ・地域の自然災害について、総合的に調べ、自然と人間との関わり方について認識すること。
- ・身近な自然環境や地域の自然災害などを調べ、自然環境の保全と科学技術の利用のあり方について、科学的に考察して判断すること。

[※地域の自然災害を調べたり、記録や資料を基に調べたりなどの活動を行うこと]

社会科 地理的分野

「地域調査の手法」

[※地域調査に当たっては、対象地域は学校周辺とし、主題は学校所在地の事情を踏まえて、防災、人口の偏在、産業の変容、交通の発達などの事象から適切に設定し、観察や調査を指導計画に位置づけて実施すること]

- ・地形図や主題図の読図、目的や用途に適した地図の作成などの地理的な技能を身につけること。
- ・地域調査において、対象となる場所の特徴などに着目して、適切な主題や調査、まとめとなるように、調査の手法やその結果を多面的・多角的に考察し、表現すること。

「地域の在り方」

- ・地域的な課題の解決に向けて考察、構想したことを適切に説明、議論しまとめる手法についてりかいすること。
- ・地域の在り方を、地域の結びつきや地域の変容、持続可能性などに着目し、そこで見られる地理的な課題について多面的・多角的に考察、構想し、表現すること。

技術・家庭科 家庭科分野

「住居の機能と安全な住まい方」

- ・家庭内の事故の防ぎ方など家族の安全を考えた住空間の整え方について理解すること。
- ・家族の安全を考えた住空間の整え方について考え、工夫すること。

[※簡単な図などによる住空間の構想を扱うこと。自然災害に備えた住空間の整え方についても扱うこと]

総合的な学習の時間

- ・目標を実現するにふさわしい探究課題については、学校の実態に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、生徒の興味・関心に基づく課題、職業や自己の将来に関する課題などを踏まえて設定すること。

自分たちの住む地域には、どのような自然災害の危険があるのだろうか？

理科

地域の自然災害について調べる
地震 津波 台風 風水害など
過去に、どんな自然災害が発生し、どの程度の被害が発生したのか？

社会科

地域の自然災害について調べる
地域のハザードマップを基に、自然災害時の地理的な課題を捉える。
地域の防災に対する特徴について調査し、地域の課題解決に向けて考察、構想する。

自然災害の被害を軽減するために、できる自助・共助について考えよう。

総合的な学習の時間

地域ハザードマップを基に、地域安全マップを作り、地域防災力向上に役立てよう

- ・ 地域の特徴や災害時の危険箇所（浸水想定区域、土砂災害警戒区域、土砂災害危険箇所、液状化しやすさ等）、避難場所、避難所等をマップにまとめ、災害時の安全な行動に役立てる。
- ・ 避難所までの避難経路（道路）の危険箇所、注意点等も調べマップにまとめる。（地震による避難、風水害による避難など、災害の種類別にまとめるとよい。）
- ・ 考えられる危険をもとに、事前の各自の備え、地域の備えを考え、提案する。

家庭科

地域の自然災害に備えた住空間の整え方を考えよう

- ・ 過去の災害事例や地域安全マップをもとに、地域の特徴から考えられる自然災害に備えて、住空間の整え方について考え、工夫する。
（例：地震の場合は、家具の転倒・落下・移動などの危険を予測し、危険な箇所を見つけ出し、改善に向けて工夫する。）

過去に発生した自然災害を調べたり、地域のハザードマップを調べたりする中で、地域の備えや取組についても調べる。さらに、今後、地域で起こりうる自然災害を想定し、日頃から必要な備えや自分たちにできることを考え、表現することで、危険予測能力、危険回避能力を育成する。

また、各教科等で学習した内容を、実生活に役立てるために、地域における防災に関する活動（防災訓練、救急法、応急手当、災害時のボランティア活動等）に参加したり、家庭において防災に関する積極的な関わりをしたりできるよう育成する。

ねらい 「災害時の危険を理解し、状況に応じた避難と避難誘導の仕方を知る。」

指導の
ポイント

状況に応じた安全な行動、避難や誘導の仕方

災害時、自分や周囲の命を守るために、それぞれの災害のメカニズムや危険を理解し、正しい情報収集をして、安全に配慮した的確な行動ができるようにする。様々な場面に
応じた避難経路と避難場所の確認、誘導の仕方を身につける。

目指す

子どもの姿

災害の状況に応じて、 早めの避難行動や避難誘導を行う

○災害に対する正しい知識の下、危険予測をし、危険回避する

○自分の安全を確保し、周囲にも声をかけて避難する

学習の
ポイント

火災について

- ・火災の原因と危険
- ・有害な煙に対する行動の仕方
- ・火災の特性
- ・救助器具の使い方と初期消火の仕方
- ・様々な場面に応じた避難の仕方

気象災害について

- ・風水害の時の危険
- ・風水害情報と避難の仕方
- ・避難指示の理解と行動
- ・落雷しやすい気象条件・雷注意報への理解
- ・積雪の時の危険

地震・津波について

- ・地震・津波発生のメカニズム
- ・地震・津波の際の様々な危険
- ・ただし情報の入手(緊急地震速報、各種警報含む)
- ・地震災害への家庭での備え
- ・避難経路と避難場所の確認

自助・共助
のポイント

危険を予測し、率先避難者となる

避難をするときには周囲の人に声をかける

学習支援のポイント

- ・日常及び災害時の安全確保に向けた正しい情報の収集と理解ができるようにする。
- ・安全に配慮した的確な行動がとれるよう、状況に応じて自他の安全を確保する態度を育てる。
- ・地域の地理、自然の特性など教科等横断的に学ぶ中で、様々な危険を予測したり、問題解決の方法を話し合ったりすることで、安全に保つために必要な事柄への理解を深める。

実践例 「風水害時に自他の命を守る安全な行動ができるようになろう」

各教科等における安全教育

<正しい知識の習得>

地理歴史 地理総合

「自然環境と防災」

- ・ 様々な自然災害に対応したハザードマップや新旧地形図をはじめとする各種の地理情報について、その情報を収集し、読み取り、まとめる地理的技能を身に付けること。
- ・ 地域性を踏まえた防災について、自然及び社会的条件との関わり、地域の共通点や差異、接続可能な地域づくりなどに着目して、主題を設定し、自然災害への備えや対応などを多面的・多角的に考察し、表現すること。

<思考力・判断力・表現力の育成>

理科 地学

「地球の大気と海洋」

- ・ 大気の大循環と対流による現象及び日本や世界の気象の特徴を理解すること。
- 「大循環」による現象については、偏西風波動と地上の高気圧や低気圧との関係も扱うこと。
- 「対流」による現象については、大気の安定と不安定にも触れること。「日本や世界の気象の特徴」については、人工衛星などから得られる情報も活用し、大気の大循環と関連させて扱うこと。また、気象災害にも触れること。

日常的な安全教育

「S・H・R」等で

<天候状況に合わせて>

- ・ 風水害の時の危険
- ・ 風水害情報と避難の仕方、避難指示・警戒レベルの理解と行動
- ・ ハザードマップをもとにした危険の理解
- ・ 落雷に遭わないための安全な行動

<繰り返し指導>

<災害発生をうけて>

- ・ 実際に発生した災害を教訓に、自分たちの行動を振り返り、災害時の安全な行動を確認する。
- ・ 災害に備えて事前にできること、気をつけることを考え、実践する。
- ・ 交通網の遮断等で帰宅困難になった時の対応

定期的な安全教育

特別活動・学校行事

<避難訓練・防災訓練>

- ・ 近隣の川が氾濫する可能性を想定した避難訓練（校舎最上階への避難等）
- ・ 地域との合同防災訓練（救急法、応急手当、災害時のボランティア活動、避難時の周囲への声掛け等、要配慮者への手助け等）

<実践に結びつける>

<長期休業前の指導>

- ・ 暴風雨、洪水等による危険及び安全な行動
- ・ 台風への備え及び安全な行動
- ・ 地域の河川、海へ近づくことの危険
- ・ 「警戒レベル」等、各種警報の意味
- ・ 旅行先での安全な行動（山間部、沿岸部）

教科等で学習した基礎知識を基に、日常的な安全教育、定期的な安全教育の場で繰り返し学習していくことで、気象災害に対する理解を深め、地域のハザードを理解した上で、自他の命を守るための安全な行動に結びつける。

ねらい 「災害時の避難所の役割とそこでの生活を理解し、災害時のボランティア活動への積極的参加について考える。」

指導の
ポイント

避難所での安全な生活、 避難所の生活と自分の役割

災害発生時における避難所の役割とそこでの生活を理解し、周りの人のために自分たちができることを考え、積極的に関わろうとする共助の姿勢を育成する。

目指す
子どもの姿

避難所の役割を理解し、 ボランティア活動に積極的に取り組む

○避難所での要配慮者について知る

○避難所で必要とされるボランティア活動について考える

学習の
ポイント

避難所の生活とは	要配慮者への対応	自分たちにできること
<ul style="list-style-type: none"> ・ 約束やルールを守り、避難者同士で役割分担し、共に助け合いながらの生活 ・ 強い不安やストレスが重なり、人権に対する意識が薄らいでしまうことがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 要配慮者とは、妊婦、子供、高齢者、外国人、障害のある方 など ・ 要配慮者の方には、思いやりと適切な支援を心掛ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 避難所運営のために必要な役割分担に進んで協力する。 ・ 要配慮者の方にとって必要な支援は何かを考え、温かい支援を心掛ける。

自助・共助
のポイント

自助・共助に向けて積極的に行動する

周りの人たちのために自分たちがやるべきことを考える

学習支援のポイント

・ 日常生活において、危険な状況を適切に判断し、回避するために最善を尽くそうとする「主体的に行動する態度」を育成するとともに、危険に際して自らの命を守り抜くための「自助」、自らが進んで安全で安心な社会作りに参加し、貢献できる力を身につける「共助、公助」の視点からの安全教育を推進することが重要である。

※ただし、ボランティア活動が過度の負担とならないよう配慮が必要である。

実践例 「災害時のボランティア活動を考えよう」～避難所でできること～

各教科等における安全教育

<正しい知識の習得> <思考力・判断力・表現力の育成>

地理歴史 地理総合

「自然環境と防災」

- ・我が国をはじめ世界で見られる自然災害や生徒の生活圏で見られる自然災害を基に、地域の自然環境の特色と自然災害への備えや対応との関わりとともに、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解すること。

保健体育科 保健分野 「安全な社会の形成」

- ・事故を防止したり事故の発生に伴う傷害等を軽減したりすることを目指す安全な社会の形成には、交通安全、防災、防犯などを取り上げて、法的な整備などの環境の整備、環境や状況に応じた適切な行動などの個人の取組、及び地域の連携などが必要であることを理解できるようにする。その際、乳幼児、高齢者、障害者、妊婦などの安全には、特に支援が必要な場合があることに触れるようにする。

特別活動 ホームルーム活動

- ・生命の尊重と心身ともに健康で安全な生活態度や規律ある習慣の確立節度ある健全な生活を送るなど現在及び生涯にわたって心身の健康を保持増進することや、事件や事故、災害等から身を守り安全に行動すること。

道徳教育に関する配慮事項

- ・学校やホームルーム内の人間関係や環境を整えるとともに、就業体験活動やボランティア活動、自然体験活動、地域の行事への参加などの豊かな体験を充実すること。その際、いじめの防止や安全の確保等にも資することとなるよう留意すること。

発展的な安全教育

探究活動

<社会貢献・社会参画>

総合的な探究の時間

- ・目標を実現するにふさわしい探究課題については、地域や学校の実態、生徒の特性等に応じて、例えば、国際理解、情報、環境、福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題、地域や学校の特色に応じた課題、生徒の興味・関心に基づく課題、職業や自己の進路に関する課題などを踏まえて設定すること。

生徒会活動における安全教育

ボランティア活動

<社会貢献・社会参画>

<地域の人々との交流> 地域の防災訓練や地域ボランティア活動への参加

- ・ボランティア活動や地域の人々との交流など社会貢献や社会参画に関する行動は、生徒が地域や社会の一員であるということの自覚と役割意識を高め、社会の中で共に生きる豊かな人間性を育むとともに、自己実現を図る上で大切な活動である。防災などの地域ボランティアに参加することで、自らの安全だけでなく地域社会の安全に視野を広げ、地域や社会の形成者として、地域や社会生活をよりよくしようとする態度を育むことができる。

地域の自然災害への備えや対応の重要性について理解する

地理歴史

地域の自然災害への対応を理解する
地域の自然環境の特色から、自然災害の規模や頻度、地域性を踏まえた備えや対応の重要性などについて理解する。
ハザードマップ、避難場所、避難所の役割等

保健体育科

安全な社会の形成について理解する
防災上の法的な整備などの環境の整備、環境や状況に応じた適切な行動、地域の連携などの必要性を理解する。
避難所における要配慮者について知る

学校が避難所になった時に、自分たちができることを考えよう

総合的な探究の時間

避難所の役割を理解し、ボランティア活動に積極的に取り組もう

- ・避難所運営ゲーム(HUG:静岡県制作)などを活用し、避難所生活について具体的にイメージする。
- ・避難所運営のために必要な役割分担について、市町村が作成している地域防災計画をもとに考える。その中で、高校生でもできることについて考える。
- ・避難所の生活の中で、要配慮者の方にとって必要な支援は何かを考える。
- ・避難所生活における強い不安やストレスの軽減方法について考える。

道徳

生徒会活動

地域の防災訓練や地域ボランティア活動への参加

- ・日頃から地域の防災訓練に参加をしたり、地域ボランティア活動に参加したりすることで、いざというときに、地域の人々と連携して活動できるようにしておく。
- ・防災などの地域ボランティア活動に参加することで、自らの安全だけでなく地域社会の安全に視野を広げ、地域や社会の形成者として、地域や社会をよりよくしようとする態度を育む。

地域の自然環境の特色や地域に住む要配慮者などを踏まえた上で、地域としての備えを考えていくことで、自分たちにできる役割を見つけていけるようにする。自分たちの学校が避難所となった際に、自分たちにできることを考える上で、学校にある備蓄物資や避難所生活に役立つものなどを調べておくことも有効である。また、自校の強み(〇〇科としての強みを生かしてできること)などにも着目してボランティア活動を考えていくことも、生徒の主体的な活動に結びつく。

特別支援学校においては、児童生徒等の障害の状態や特性及び発達の段階等、さらに地域の実態等に応じて、自ら危険な場所や状況を予測・回避したり、必要な援助を求めたりすることができるよう、日頃から様々な災害状況を想定した学習や訓練をしておくことが必要である。

災害時の安全な行動と避難行動

ねらい 「災害時の危険を理解し、安全な行動と避難の仕方を知る。」

指導の
ポイント

状況に応じた安全な行動、避難経路・避難場所の確認と避難の仕方

災害時、自分や周囲の命を守るために、それぞれの災害の危険を理解し、安全に行動できるようにする。障害の程度や発達の段階に応じて、様々な場面に応じた避難経路と避難場所の確認、避難の仕方を身につけさせる。

目指す

子どもの姿

いざというときは

状況に応じた避難行動をとる

○それぞれの災害の危険を理解し、安全な行動をとる

○支援が必要な時に、自分から必要な援助を求める

学習の
ポイント

登下校中(自力通学)に地震が発生した場合の避難行動

○揺れが収まるまで

- ・ 徒歩、自転車、電車やバスなど、通学方法や経路の違いなどを踏まえ、通学途上で想定されるリスクについて、具体的に指導する。
 - 倒れやすいブロック塀から離れる。(徒歩、自転車)
 - 近くの柱や背もたれにつかまり姿勢を低くする。(電車、バス)
 - エレベーターに乗っていたときは、全てのボタンを押して最寄りの階で降りる。(駅ビル等)

○揺れが収まったら

- ・ 揺れが収まってから考えられる行動のとり方を具体的に指導する。
 - 余震に備えて更に安全な場所を探す。
 - 運転手や駅員の避難誘導の指示に注意する。
 - 落ち着いて周囲の動きを見る。
- ・ 周囲に助けを求める方法を指導する。
 - 家や学校に自分の安否や居場所を知らせる訓練を定期的実施する。(ワンポイント訓練)
 - 障害者にとって便利なツールを使うと効果的な場面を想定した練習を行う。

(お願い手帳、コミュニケーションカード 等)

スクールバス乗車中に地震が発生した場合の避難行動

走行時の揺れと異なる異常な揺れに、児童生徒等は不安になったり興奮したりして、窓ガラスを叩いたり立ち歩いたりする心配がある。児童生徒等の動揺を軽減するために、「取るべき行動」を指導する。

○取るべき行動

- ・指導する内容は、ワンポイント訓練等を日々繰り返す中で、体験的な理解を促す。
 - 揺れが収まるまで前のシート等をしっかりつかむ。
 - 頭を低くする姿勢を取る。
- ・スクールバスに「取るべき行動」を図示した絵(ボード)等を掲載したり、絵を透明フィルム使って椅子の背もたれの裏側に貼ったりするなどの工夫をする。

校内にいるときに地震が発生した場合の避難行動

揺れが起こった時、とっさに身を守る方法として、「机等の下に身を隠す」以外の方法について、校内の場所別に具体的に指導し、児童生徒等の自助力の意識を高める。

○揺れが収まるまで

- ・音楽室、図書室、トイレ、階段の途中、中庭や校庭、対処方法と場所と結び付けて指導する。
 - 〇〇から離れる 重い本が落ちてくる(図書室)
 - テレビやピアノは倒れてくる(飛んでくる)(PC室、音楽室)
 - ガラスが割れて飛び散る(理科室、校舎まわり)
- 緊急地震速報を聞いたら、又は最初の衝撃(初期微動)を感じたら、すぐ行動に移せるように、ワンポイント訓練等を日常的に行う。
- ・「落ちてこない」「倒れてこない」「移動してこない」場所で身を守る訓練を行う。

○揺れが収まったら

- ・教職員の指示に注目したり理解したりできるよう練習しておく。
 - 決まった言葉を使う 「先生と一緒に逃げます」「〇〇階段を通ります」等
 - 逃げ方のルールを体験しておく ロープを握る、抱きかかえられたら静かにする 等

いざというときに 慌てないように

自助・共助
のポイント

「取るべき行動」を身に付ける

困ったときには、周囲に助けを求める！

学習支援のポイント

- ・個々の児童生徒等の障害の状態等に応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行う。
- ・地震以外の災害(火災、気象災害、津波等)についても、災害時の危険や「取るべき行動」を具体的に示して学習し、ワンポイント訓練等を繰り返し、確実に身に付けられるようにする。